

# 改題 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 7月号 (NO75)

2016年7月10日 (日) 発行 (毎月10日)

## 【農暦】大汗をかきながら農を楽しみたい!

○日が暮れるのがいやに遅い。6時の時報を聞いてからしばらくは農作業が出来る。薄暗くなるまで農作業をするととんでもない時間になっている。余りやれていない農作業はやる時は変に頑張ってしまう。先月の21日は夏至だったのである。7月初めは半夏生(はんげしょう)の時期である。雨の日が多い梅雨の気候である。晴耕雨読の言葉に憧れた部分もあって定年後の農的生活に桃源郷を模したところがあった。現実は大きく違っている。天候も夏と梅雨が交互に来るような天気が続く。

“晴耕雨読”のことばのもつ意味合いとは全く違う時間が流れている。そんな中であって、雨に濡れた紫陽花を愛でることが出来た。艶やかな薄紫の花と薄緑の葉が梅雨を感じさせてくれた。ご近所の“墨田の花火”はひとときわ艶やかで挿木にと1枝をお願いしている程である。

○Iさんの援農で菜園も少し整理されてきた。菜園の一角で益々存在感を示し繁茂を続けるモチの大木が気になっていた。柏の家の木の剪定を期に、気がかりが増幅していたのでIさんに相談したら快諾いただけた。安全第一で枝の切り落としを行った。作業が終わって見ると、モチの大木は“岡本太郎の太陽の塔もどき”になっていた。こうなってもモチの木は枯れないで直ぐ繁茂するという。樹形をどのように整えるかはこれから考えたい。隣地からの葛の脅威が始まっている。すでにもう一つのモチの木は覆われてしまった。6日には隣地との境の葛を一掃したいと思う。昨年と同じにはしたくない。

○雨が続き耕起が出来ずに1週ずれてしまったが、30日に、黒豆、金時、小豆の赤、黒、白を播種した。それに発芽率が悪く数量は少しであるが、育苗していた落花生(おおまさり)の定植も行った。何回か耕起していたが草が出始めていた。畦やサツマイモの畝などは可なり草が繁茂していた。トラクター耕起と草払機で畑の景色に変わった。良い汗をかいた。シャワーを浴び、プリン体offを頂いた。久しぶりに良い気分を味わえたような気がする。疲労感が心持よい。晴耕雨読ではないが満足の日であった。種まきはいい。○毎月不思議な程雑事が多い。今月も柏の家の外回りの改修工事やいろいろあり、下手の



<那須 penny Rain>雨のため屋内で、800円のモーニングプレートを、美味だった。雨で緑も。15日撮影

横好きも否めないが、相変わらずバタバタしている。OB 会も 2 つあったが次回にと不参加とさせて頂いた。重複もあったが、守りにシフトしたいと思ったからでもある。物もだが心も断捨離が必要だと思う。だが逆が多い。愚鈍では、晴耕雨読の心境にはなれない。

○手入れの効果もあってか、ブルーベリーは今年も、たわわに実を付けてた。数少ない出荷品になっている。菜園仲間の友人に“出荷・売上は金のこともあるが、子供のように嬉しいものがある”とメールしたが、ちょっとした儀式のような楽しいものがある。出荷出来るのは僅かのブルーベリーと豆類である。自称でもピッコロファーマーは僭称である。だが、そのまま続けたい。大汗をかきながら農を楽しみたいからである。(5 日記)



＜ブルーベリー＞今年も一杯実を付けた。3 日撮影

### 【楽農】黒豆、小豆、金時の播種！

＜畑 A＞；草払機で除草（継続）、ブルーベリー収穫。じゃが芋、茄子、アスパラガス、サラダ菜など少量収穫。

＜ハウス＞；ボカシ堆肥づくり（継続）

＜畑 B＞；トラクターで耕運、草払機で除草。落花生（おおまさり）定植、黒豆、小豆（赤、黒、白）、金時の播種。

\*ブルーベリーの出荷。モチの木の剪定。



＜トマト・茄子・ピーマン＞取れ始まる。1 日撮影

### 【楽市】イベント交流・直売など

○その他；詩吟県西大会（12 日）ピッコロファーム那須例会（14 - 15 日）法事（26 日）共生つばさの会（7 日）エコピア柏（9 日）に参加など。



＜赤玉ねぎ＞那須の K 菜園で乾燥貯蔵中。15 日撮影

### 【つぶやき=Tweet】男は種まきが好き！

○採らなくては大きくなり過ぎてしまうと、よく言われる。実をたわわに付けた茄子やピーマンの周りの除草している時に、同じように言われた。そうですねと答えながら、どうも私は、収穫より、種まきや植込みが好きである。と言ってしまふ。管理が出来ていない言い訳に聞こえるのではないかと言いたくないセリフなのだが、いつもは非難や馬鹿にしたような言葉が返って来る。今回は違っていた。私もそうですよと、云われた。女性は収穫が好きなのは承知していたが、男性に種まきが好きだと云われると日頃の私の立場が支持されたようで嬉しかった。男性の性（さが）だと、みょうに自己肯定感な気持ちになっていた。春先の種まき時期の農作業はワクワクするものがある。だから能力以上に作付けし失敗する。農作業には必然的な男女の役割分担があるのかもしれない。

○男女のことで言えば、20 年以上前になるが、竹内久美子（京大・理学部卒動物行動学専）

の著書を興味深く読んだことがある。最初に読んだ“BC！な話”はとにかく面白かった。BCとは生物学的(B)には正しい(c)という意味である。“遺伝子を後世に残すために必要なBCな行為である。それらはすべて、自分のコピーを残そうとする遺伝子のなす業、熾烈な精子競争に勝ち残ろうとする精子の陰謀だ。”と云う。それに続けて数冊も買い求めて読んだ。その後しばらくしてから、舛添元知事の告発の先鞭を作った週刊文春に竹内久美子のコーナー出来ていた。目からウロコの内容が満載である。“ダーウィンが来た”の人間版がのぞける。是非読んで欲しい。



＜モチの木＞剪定され岡本太郎の太陽の塔モドキに。枯れないで繁茂すると。16日撮影

○最近の富裕層の増加率は日本が世界一であるという。中間層が崩壊し弱者が益々増え、追い詰められた弱者の犯罪ニュースに触れるたびに怖さを感じる。明らかに、戦争から解放された70年間の過去の方がよかったように思える。弱肉強食が支配する過酷なものがあったかもしれないが、みんな貧しく明日へ希望を持っていた。所得倍増で1億総中流とも言われた。竹内久美子の論に従って言えば、遺伝子の精子競争にも参加意欲を失わせる境遇を強いられているのかもしれない。3人に1人が生涯独身の社会が生まれてきている。社会が壊れて来ている。ニュースが鬱積したマグマの小さな噴出に見えてくる。大噴火は怖れるが、それでしかクリア出来ないのであるなら人類の知見は寂しいものになる。

○少し前に。たまたま見たテレビで、高橋是清（財務大臣）や鈴木貫太郎（終戦時総理）のことをやっていた。経世済民（\*1）がある。こんな政治家はいない。情けない政治家ばかりである。稀に素晴らしい政治家もいる。育て応援するのも義務なのかもしれない。精子競争をサポートし良い種を増す努力が必要かもしれない。政治家に“舛添さん”は多い。維新の会が伸びたのは行政、政治家（議員）の厚遇を指摘しているからのように思える。貧者・弱者がどんな状況にあるか考えて欲しい。年金世帯より年収の少ない現役世代の存在を考えると、自分の先行きを心配しながらでも心が痛む。もう一つの心配は憲法9条である。改憲勢力が3分2を占めた。出来るなら高橋是清を必要としない国であって欲しい。選挙速報を見ながら思った次第である。選挙結果が気になり、重い話にしてしまった。

\*1；経世済民とは世を治め、民の苦しみを救うこと。

【後記】汗をかき、ビールの美味を。笠間に、kogure農場にお越し下さい。HPに転載しています。

【特に編集せずランダムな構成にします】

発行者；Kogure農場・小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；[torao-k@nifty.com](mailto:torao-k@nifty.com)

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>